UrbanDesignLab.Magazine

2015.3.31 vol. 227

卒業生の置き手紙

WORDS FROM THE GRADUATING STUDENTS

研究室への置き手紙 p.2
追い出しコンパ開催 !! p.4

東京大学
工学部都市工学科／
工学系研究科都市工学専攻
都市デザイン研究室

http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/

編集長： 高梨 遼太朗
編集委員：道喜 開視 原 由希子 今川 高嶺
柄澤 薫冬 柴田 純花 髙橋 舜
中島健太郎 益邑 明伸

研究室への置き手紙

Words Left for the Laboratory

3 月 24 日 (火) に M2 高梨、道喜が学位を取得し、卒業しました。この学年の修士の卒業生は 2 人のみであり、写真は若干寂しげではありますが、変わらず満面の笑みでした。安田講堂の改修工事はこの日に合わせて完了し、大学院の学位授与式がお披露目となりました。改修された安田講堂は誕生から降り注ぐ光が非常に印象的でした。

今号では毎年恒例の研究室への置き手紙を修了する二人が執筆しました。お世話になった 2 年間を振り返っています。皆様、本当に長い間僕ら 2 人の面倒を見てくださいまして、どうもありがとうございました。

▲改修工事後のお披露目となった安田講堂

▲学位記を受け取る道喜

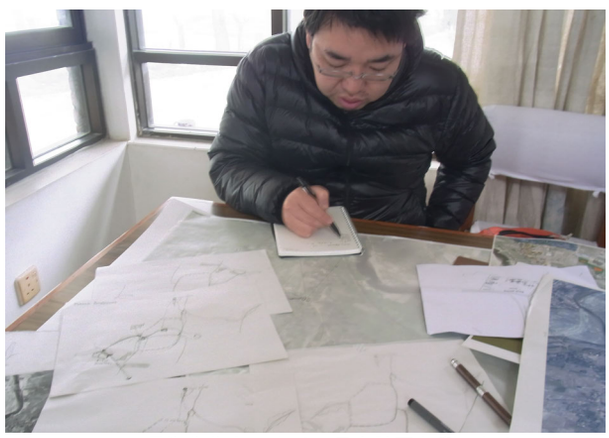
高梨 遼太朗の手紙

僕の代でそのまま学部から都市デザイン研究室に入ったのは僕だけでした。他の研究室に入った同期からは、研究室についての質問を多く受けました。もっと設計力を身につけることをやる研究室ではないのか？ TA やりすぎではないか？なんのためにマガジンをやるのか？プロジェクトはなんのためにあるのか？研究はやっているのか？研究テーマが研究室内でそれほどバラバラで研究室である意味はあるのか？いくつもの「なぜ、なんのため」を聞かれました。皆様は答えられるでしょうか。M1 の僕は全然答えられませんでした。それでも一つ一つのことに意味があるような気がして、その時から一つ一つの活動を全力で行うことで意味を探しながら、しっかりした論文を出すことが僕の目標になりました。

そのように 2 年間をすごし、最後に研究室の後輩にもう一つ言い残すのであれば次のようになると思います。都市デザイン研究室の一つ一つの活動の背後には、熱い思いを持って始めた人がいます。ただ、その内容が形骸化してしまっていることがあるように思えます。目の前のことに没頭すること自体にも価値はありますが、たまには、頭をあげて、「なぜ、なんのため」を問い直してみる、先輩たちがどう考えていたかを聞いてみるなどをすると気づけることもあるのかなと思いました。(もちろん好きだからやるはありです！)

皆様には本当にお世話になりました。どうもありがとうございました。また会う日には胸を張った報告ができるよう頑張ります。

▲柏原さん、越村さんが描いた記憶アーカイブをさわらぼで！



▲黒瀬先生と二人で 1 日中計画を書いたルンビニ PJ

▲赤浜のまちなかを望む

▲ミナトブンカサイ 2014 の様子

道喜 開視の手紙

この 2 年間を振り返ると、日本橋コンペに始まり、大槌プロジェクト、清水プロジェクト、読書会、マガジン、TA、ローマワークショップ、20 世紀都市遺産プロジェクト、修士研究などと色んな活動ができました。修士課程での目標としても、学部までの生活がサッカー中心だった分、様々な活動に取り組もうと考えていたので、その点では自分が想像していた目標を遥かに越えて達成できたと思います。研究室のメンバーはもちろん、OB の先輩方や現地の住民の方々、他研究室の先生方などと対話し、協働したことで、訪れた都市の多様性を身を以て知り、それに向かう可能性の大きさに魅了されました。

しかし、それだけ色んな活動をした分、自分の至らない面も多々見つかりました。自分自身のメンタルの弱さや、都市への切り口の甘さ、住民の方々と正面で向き合う覚悟の不足、あるべき空間像の表現の欠如などです。もちろん、目の前のことに対して全力を尽くしてきたつもりではありましたが、それを遥かに越える都市というものは、自身の未熟さ、至らなさを実感させました。

こうしたことに気づくことのできた貴重な経験を次のステージに生かしていきます。

みなさま、大変お世話になりました。ありがとうございました。

追い出しコンパ開催!!

Farewell Party was Hosted!!

▲最後の集合写真。ご卒業おめでとうございます！

以下、追い出しコンパについてコンパ係 M1 羽野からの報告です！

＊

去る 3 月 24 日、神楽坂にて、都市デザイン研究室追い出しコンパを行いました。一次会は、メッセージ写真のスライドショー、先生方からの送る言葉、プレゼント贈呈、先輩方の言葉、という次第で進みました。

スライドショーでは研究室のメンバーからのメッセージに加え、佐原、大槌、ルンビニ、清水などのプロジェクト先の方々からも届き、卒業生だけでなく研究室メンバー皆で楽しく見させて頂きました。特にプロジェクト先の方々からの「また来てね」や、少し穏やかでないものだと「逃がさんぞ」といったメッセージからは先輩方がプロジェクトでこの 2 年間培ってきたまちとの絆を感じました。

▲ M1 からプレゼントの贈呈

次の先生方のお言葉は 30 分以上に及び、途中涙ぐむ場面も。特に印象に残っているのは、窪田先生の七つの大罪のお話と、西村先生の「努力は今から始まる」というお言葉でした。七つの大罪は窪田先生が尊敬されているガンジーの提唱したもので、その七つの大罪にあたるような、自分がやってはいけないことを決めて、後は自由に生きてほしいというお話でした。西村先生は、努力をまちは受け止めてくれる、正解はないが努力すれば応えてくれる、そして君たちの努力は今始まったばかりだ、とおっしゃっていました。

続くプレゼント贈呈、後輩の M1 から都市デザイン研究室ロゴ入りの特製木製名刺入れをお送りしました。続いて先輩方から先生方へ、ケーキやお酒が送られました。特に西村先生に送られたアイリッシュウイスキーは、夏の研究室旅行で西村先生が絶賛していたもので、先輩方と先生との交流の思い出が込められている素敵な贈り物でした。また、先輩方から研究室へは、コーヒーマシンを頂きました。ちょうど年末頃から研究室内でコーヒーが大流行しているのですが、これでまだまだ流行は続きそうです。

先輩方のお話は、今までのプロジェクトを振り返ったり、研究室に入ったときを振り返ったりされながら、これからの抱負や後輩へのメッセージが込められていました。道喜さんの、思っていることを伝えることの大切さのお話、高梨さんの、後輩に向けた結果を大切にすることというお話など、確かにメッセージを受け取りました。

二次会三次会と朝まで会は続き、より距離近く先輩方とお話しできたことと思います。これから先輩方はそれぞれの道へ歩まれますが、それぞれの場所で一層ご活躍されることをお祈りしております。

▲ M1 からのプレゼント、メッセージ付です

information

3 月のウェブ記事

黒瀬助教 審査会終了！と、その後

是非ご覧下さい：http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/

4 月の予定

4 日 20 日	都市デザイン研究室・地域デザイン研究室 ・空間計画研究室　2014 年度活動報告会 (誰でも参加可能！詳しくは研究室 HP へ！)
4 月 23 日	第一回研究室会議・新入生歓迎コンパ

編集後記

高梨 遼太朗

都市デザイン研究室編集長としての最後のマガジンになりますが、例年の先輩たちが言うほどあっという間ではなかったように思います。。詰まった一年だったということですよね！

さて、新人研修がどんどん始まって参りましたが、受ければ受けるほど、デザ研で学んできた論理的思考・グループワーク能力・プレゼンスキルなどがいかに本質的で汎用性があるかを実感しています。研究室の後輩には自信を持って目の前ことに一生懸命になって欲しいと思いました。今後はデザ研で一番養われた熱いハートがどれほど通用するか見ていきたいと思います！では！